

2010年5月期 第3四半期 決算説明資料

株式会社インテリックス

「リノベーション(再生)という マンションの新しい選択」

1. 2010年5月期 第3四半期 決算概要

- 1-1 第3四半期 決算ハイライト
- 1-2 第3四半期 連結損益の概況
- 1-3 第3四半期 連結貸借対照表の概況

2. 2010年5月期 重点方針の進捗状況

- 2-1 これまで実践してきた戦略の概要
- 2-2 総資産及び自己資本比率の状況
- 2-3 長期滞留物件の削減状況
- 2-4 棚卸評価損の状況
- 2-5 事業期間の短縮状況
- 2-6 固定費の圧縮の状況
- 2-7 成長に向けた戦略の概要
- 2-8 公募増資の実施
- 2-9 資本増強による仕入拡充のイメージ

3. 2010年5月期 連結業績見通し

- 3-1 2010年5月期 連結業績予想
- 3-2 2010年5月期 連結業績予想の内訳

4. 市場動向と今後の展望

- 4-1 中古マンション市場の動向①(前年比)
- 4-2 中古マンション市場の動向②(過去3年)
- 4-3 マンション市場の中期展望

5. コーポレート・データ 【参考資料】

- 5-1 セグメント別売上高
- 5-2 セグメント別売上総利益
- 5-3 物件販売の状況①
- 5-4 物件販売の状況②
- 5-5 物件仕入の状況
- 5-6 安定した需要の中古マンション市場
- 5-7 当社販売実績と新築マンション供給戸数との比較
- 5-8 リノベーション住宅推進協議会への積極参加
- 5-9 株式の状況
- 5-10 会社概要及び沿革

1. 2010年5月期 第3四半期 決算概要



■ 堅調な物件販売、コストの圧縮により収益性が向上し、大幅な黒字転換を実現

(単位:百万円)

【P/L】	前3Q累	当3Q累	前3Q差
売上高	26,994	19,940	△ 7,054
営業利益	△ 787	1,110	+1,897
経常利益	△ 1,409	720	+2,129
四半期純利益	△ 1,798	849	+2,647
【B/S】	前期末	当3Q末	前期末差
総資産	23,188	21,984	△ 1,203
たな卸資産	15,905	14,650	△ 1,255
自己資本比率	14.0%	23.0%	+9.0ポイント

【リノヴェックスマンションの販売実績(累計)】

販売件数: 787件 (前3Q比: △202件)

平均単価: 21.8百万円 (前3Q比: △3.8百万円)

【損益ダイジェスト】

- リノヴェックスマンション販売が堅調に推移
 - ・2,000万円台前半の実需層は安定した取引
- 良質な在庫に入れ替わったことで利益回復。棚卸評価損を1億52百万円計上
(前3Q累:15億30百万円)
- 固定費や営業外費用(支払利息等)の圧縮により、損益分岐点を押し下げ

【貸借対照表ダイジェスト】

- 事業期間の短縮化で引き続き総資産が圧縮
- 公募増資の実施(2010.1)により10億円調達。自己資本比率が9ポイント増の23%に向上

(単位:百万円)

	2009年5月期 3Q累計		2010年5月期 3Q累計				2010年5月期 通期予想		
	金額	売上比	金額	売上比	前3Q比	前3Q差	金額	売上比	進捗率
売上高	26,994	100.0%	19,940	100.0%	△ 26.1%	△ 7,054	28,105	100.0%	70.9%
売上総利益	1,462	5.4%	2,897	14.5%	+98.1%	+1,434	—	—	—
営業利益	△ 787	—	1,110	5.6%	—	+1,897	1,682	6.0%	66.0%
経常利益	△ 1,409	—	720	3.6%	—	+2,129	1,081	3.8%	66.6%
当期純利益	△ 1,798	—	849	4.3%	—	+2,647	1,043	3.7%	81.4%

- 売上高:前3Q比で26.1%減、売上総利益:前3Qのほぼ2倍に伸長
- 固定費、支払利息等の削減により、営業利益、経常利益が大幅黒字化
- 4Q(3-5月)に繁忙期を迎えることを加味すると、想定通りで業績は進捗

【ご参考】セグメント情報は、後述「5-1 セグメント別売上高」「5-2 セグメント別売上総利益」をご参照ください。

■ 公募増資による資本増強により、財務体質が向上

(単位:百万円)

	2009年5月期 期末		2010年5月期 3Q末		前期末比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
たな卸資産	15,905	68.6%	14,650	66.6%	△ 1,255	△ 7.9%
その他流動資産	1,500	6.5%	2,162	9.8%	662	+44.1%
流動資産	17,405	75.1%	16,812	76.5%	△ 592	△ 3.4%
固定資産	5,783	24.9%	5,172	23.5%	△ 610	△ 10.6%
【資産合計】	23,188	100.0%	21,984	100.0%	△ 1,203	△ 5.2%
流動負債	14,003	60.4%	13,634	62.0%	△ 369	△ 2.6%
固定負債	5,943	25.6%	3,267	14.9%	△ 2,676	△ 45.0%
【負債合計】	19,947	86.0%	16,901	76.9%	△ 3,045	△ 15.3%
【純資産合計】	3,241	14.0%	5,082	23.0%	1,841	+56.8%
【負債及び純資産合計】	23,188	100.0%	21,984	100.0%	△ 1,203	△ 5.2%

◆仕入強化に転じたため、3Qの通常物件は増加

【たな卸資産の内、商品物件内訳】

通常物件	71億円 (+5億円)
	382件 (+54件)
賃貸物件	74億円 (△18億円)
	248件 (△21件)

◆長期保有収益物件(オフィスビル等)
・保有高:43億円、6件
(本社売却で△5億円)

◆たな卸資産の減少により、有利子負債残高が減少
・有利子負債残高:153億円
(前期末比:△27億円、△15.3%)

◆公募増資(2010.1)で10億調達
自己資本比率が向上
・前期末:14.0% ⇒ 3Q:23.0%

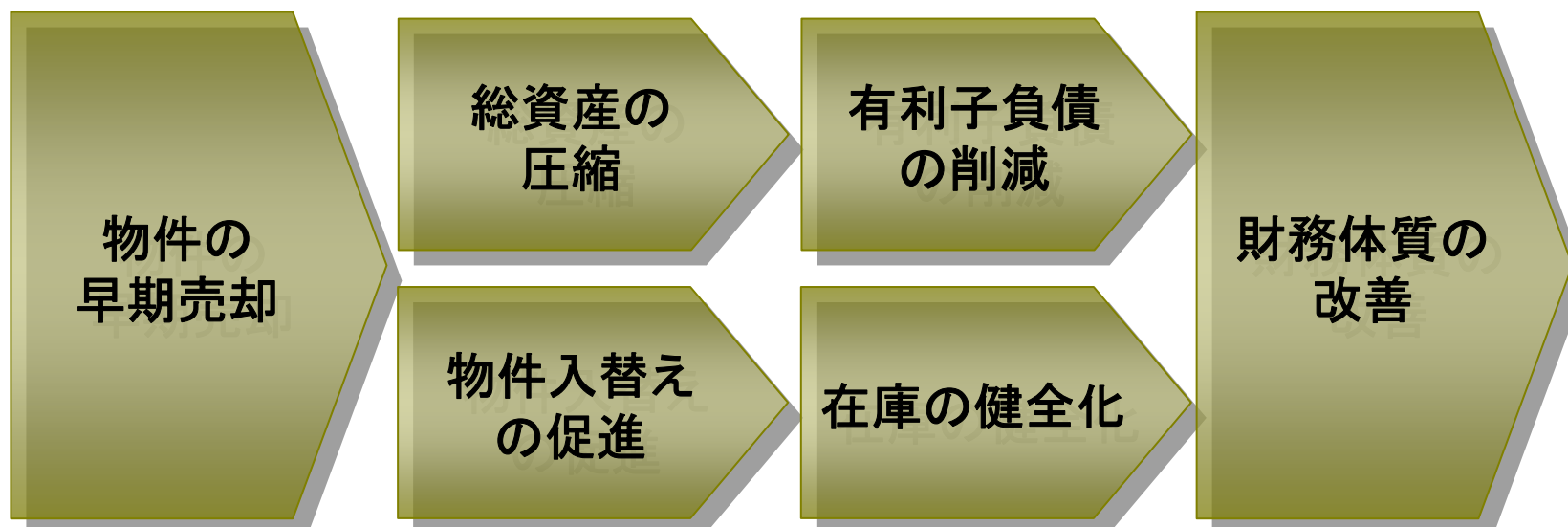
2. 2010年5月期 重点方針の進捗状況



- 早期の物件売却により総資産を圧縮し、財務の健全化を促進

健全化に向けた財務戦略

総資産の圧縮によるスリム経営



第2四半期

■ 総資産の圧縮による財務健全化策が完了！

【前々期1Q (2007.8)】

〔総資産の圧縮をスタート〕

- ・総資産： 443億円
- ・たな卸資産： 367億円
- ・有利子負債： 367億円
- ・自己資本比率： 12.5%

【当期3Q (2010.2)】

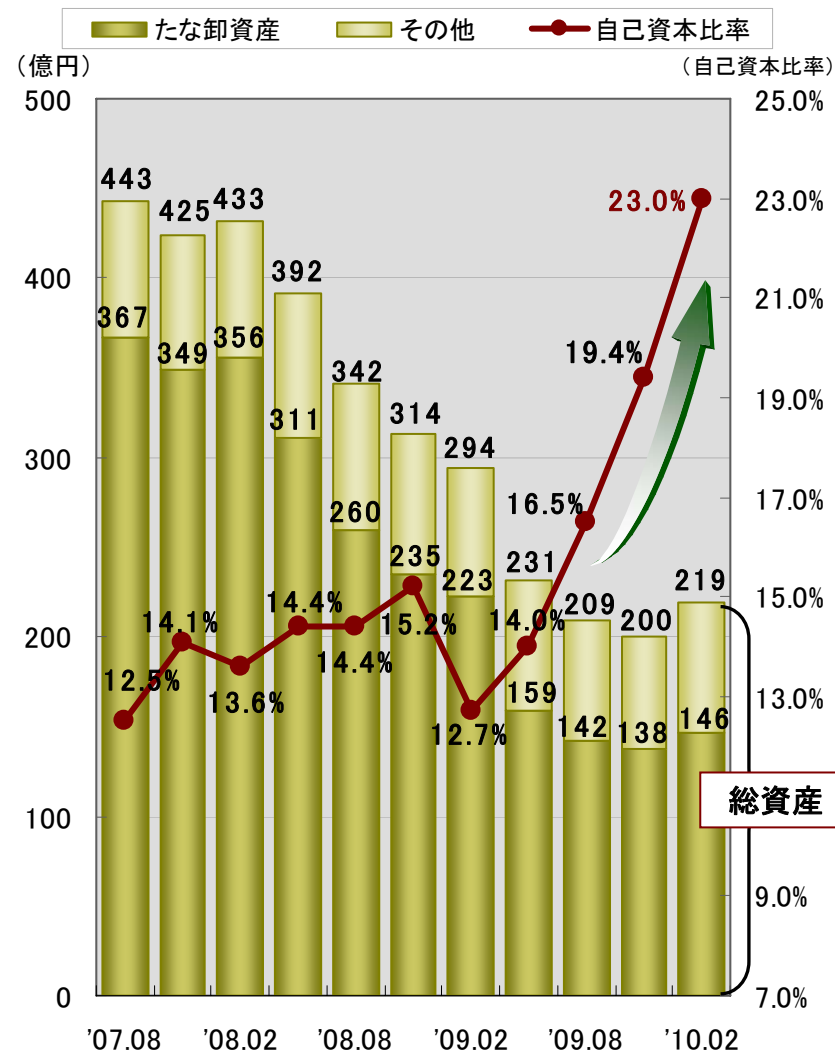
- ・総資産： 219億円
- ・たな卸資産： 146億円
- ・有利子負債： 153億円
- ・自己資本比率： 23.0%

- 事業期間の短縮化により、たな卸資産が縮小
- 総資産の圧縮策、有利子負債の削減策が完了

■ 公募増資による資本増強⇒自己資本比率が上昇

◎財務体質強化により、今後積極的な仕入れに転換へ

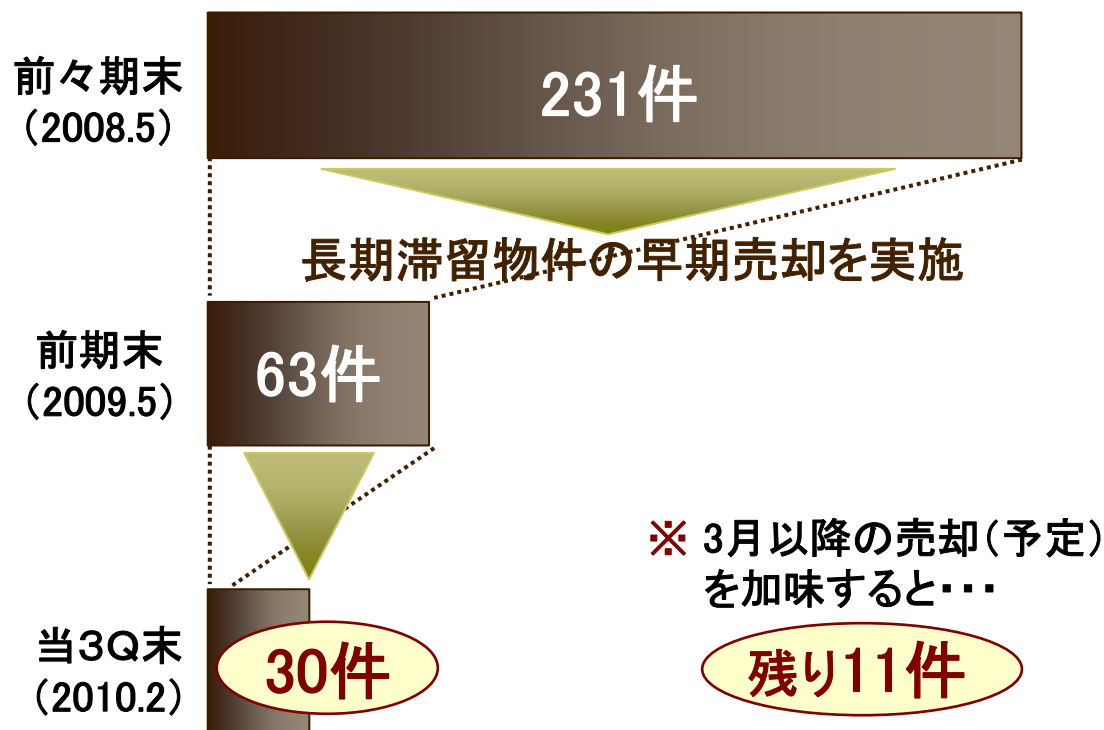
総資産及び自己資本比率



■ 底堅い需要を反映して売却が促進され、長期滞留物件は減少

* 当社では、保有期間180日超過した物件を「長期滞留物件」と定義

長期滞留在庫の推移



- 2,000万円前半の実需売れ筋ゾーンに絞り込み仕入れ
- 滞留在庫発生 of 未然防止管理

- ・前々期末(2008.5): 残高231件
- ・前期末 (2009.5): 残高 63件
- ・当3Q末 (2010.2): 残高 30件

※売却予定を加味すると、残り11件

■ 長期滞留物件の売却一掃により、多額の棚卸評価損の計上は終息

棚卸評価損の推移

当3Q末現在 (2010.2)

(単位:百万円)



■ 棚卸評価損の当2Qまでの累計額

- ・前々期: 459百万円
 - ・前期: 2,267百万円
 - ・当2Q: 108百万円
- 累計計上額: 2,836百万円

■ 売却が実現した物件の棚卸評価損

- ・前期: 1,499百万円
 - ・当期中: 994百万円
- 2,493百万円分を売却

■ 当3Q末で、342百万円が未売却

- 当3Qに、棚卸評価損43百万円を計上

※3月以降の売却(予定)を加味すると…
未売却の棚卸評価損残高: 375百万円

- 継続的な努力により事業期間の短縮化が加速 ⇒ 事業期間120日以内の厳守



▶ リノヴェックスマンションの事業期間の推移

(保有期間180日超過の長期滞留物件を除く)



- 事業期間120日、商品化期間45日以内を堅持
- 期間管理、利益管理の継続。滞留物件の未然防止対応

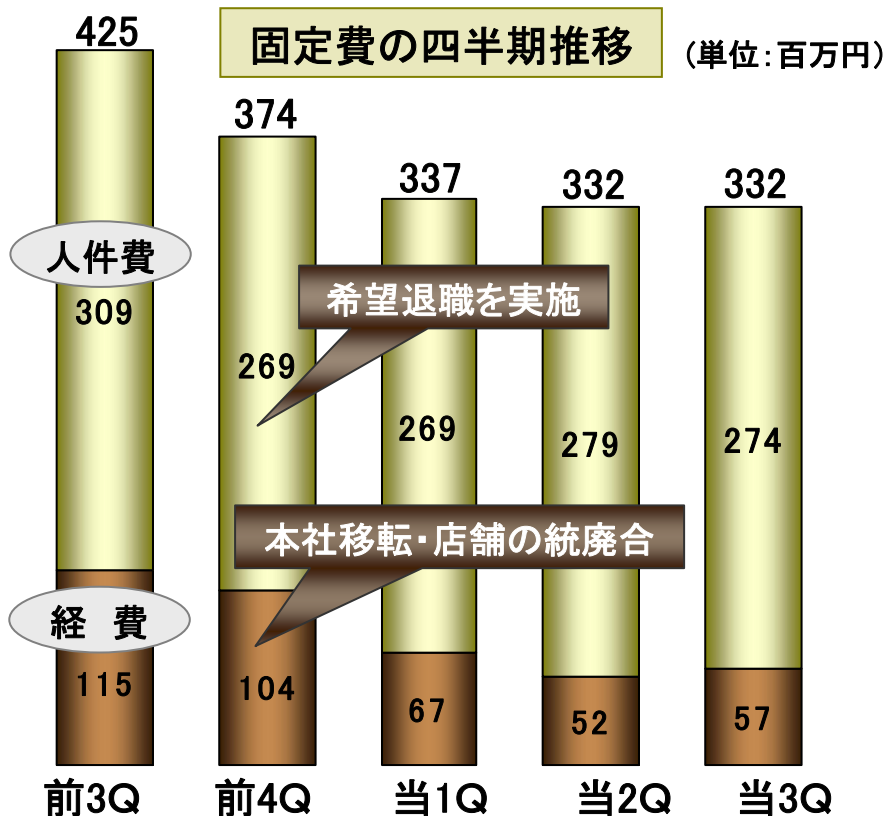
■ 前期の経営合理化策の実施により、固定費を抜本的に圧縮

【前期に実施した主な経営合理化策】

- 本社の移転、店舗の統廃合
- 希望退職による人員削減の実施

- 固定費の抜本的な削減効果が、今期の期初から収益に寄与

◎スリム経営が定着化し、
損益分岐点を押し下げ

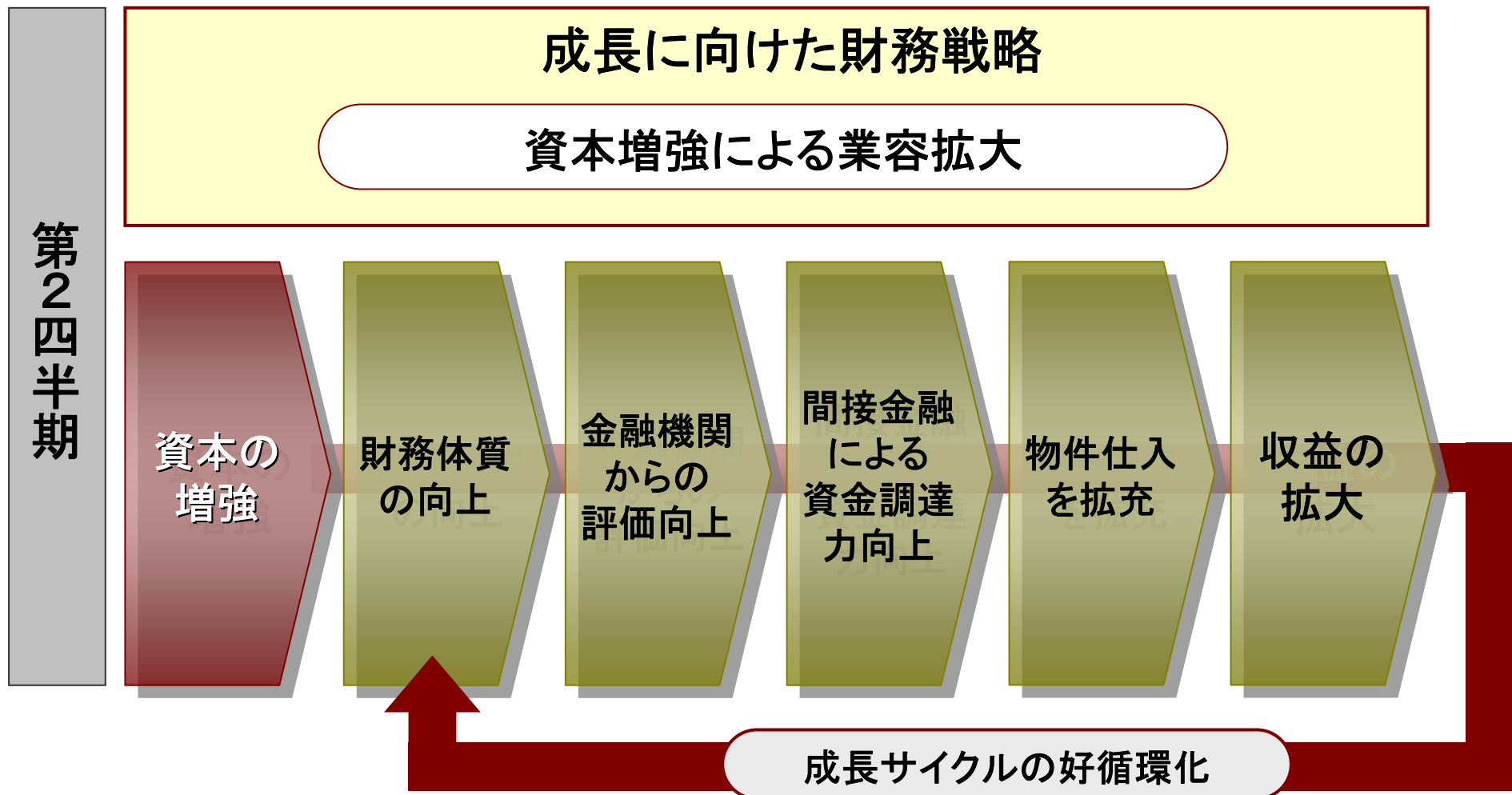


当3Qの人件費
⇒前3Q比 11.2%減

当3Qの経費
⇒前3Q比 50.2%減

当3Qの一般管理費計
⇒前3Q比 21.8%減

- 資本増強により仕入能力を高め、収益の拡大を目指す



■ 当3Qにおいて、成長に向けた公募増資を実施

発行株数

新規発行株式数: **13,800株**

- ・公募(2010.1.29): 12,000株 (発行済株式数の19.5%)
- ・第三者割当[OA分](2010.2.24): 1,800株

※OA: オーバーアロットメント

調達額

発行価格: @79,540円 (ディスカウント率3%)

払込金額: @75,440円 (払込金額の総額: 10億41百万円)

調達総額: **10億30百万円**

資本金等

資本金: 16億56百万688,500円

発行済株式数: 75,300株

増資による自己資金
10億円（仕入額の20%）

+

間接金融による調達資金
40億円（仕入額の80%）

=

新たな仕入資金
50億円

×

事業回転数
年3回

事業資金
150億円を確保可能

■ 1物件当たり仕入額2,000万円とした場合、750件分に相当

（1物件当たりの仕入内訳）
・物件仕入価格：@16百万円
・内装費、諸費用：@4百万円

（ご参考）2009年5月期 リノヴェックスマンション仕入件数実績：1,053件

3. 2010年5月期 連結業績見通し



■ 物件販売の底堅さ、固定費圧縮により、収益構造が転換 ⇒ **成長軌道に復帰へ!**

(単位: 百万円)

	2008年5月期 (実績)		2009年5月期 (実績)			2010年5月期 通期予想		
	金額	売上比	金額	売上比	前期比	金額	売上比	前期比
売上高	47,448	100.0%	37,880	100.0%	△ 20.2%	28,105	100.0%	△ 25.8%
営業利益	2,117	4.5%	△ 1,122	△ 3.0%	—	1,682	6.0%	—
経常利益	984	2.1%	△ 1,926	△ 5.1%	—	1,081	3.8%	—
当期純利益	545	1.1%	△ 2,309	△ 6.1%	—	1,043	3.7%	—
1株当たり 当期純利益(円)	8,901.24	—	△ 37,553.36	—	—	15,808.47	—	—
期中平均株式数	61,312	—	61,500	—	—	66,022	—	—

【配当予想】

中間	期末	年間	連結配当性向
1,000円	1,500円	2,500円	15.8%

- 厳選仕入れにより減収となるものの、物件の利益率向上、固定費削減で収益性が大幅に改善
- 底堅い物件販売により安定した利益水準を確保し、**従来成長軌道への復帰を目指す**

■ 売上区分別の内訳見込

(単位:百万円)

売上区分	2009年5月期		2010年5月期		
	金額	構成比	金額	構成比	前期比
物件販売	36,283	95.8%	26,413	94.0%	△ 27.2%
賃貸収入	1,222	3.2%	1,024	3.6%	△ 16.2%
その他収入	374	1.0%	667	2.4%	+78.4%
売上高	37,880	100.0%	28,105	100.0%	△ 25.8%

■ リノヴェックスマンションの 販売見込（通期）

【販売件数】 **1,128件**

（前期比：△272件、△19.4%）

【販売単価】 **22.3百万円**

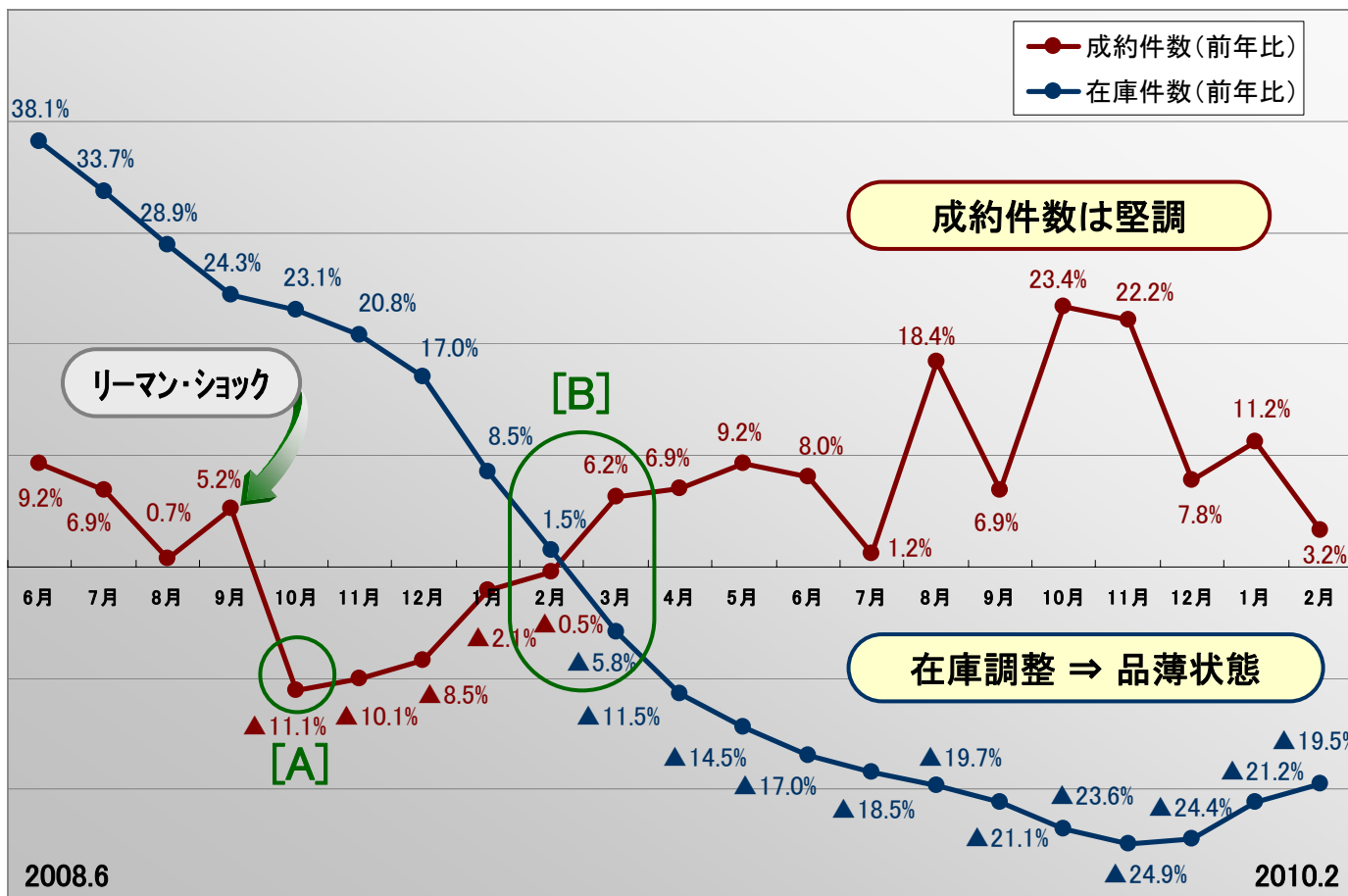
（前期比：△2百万円、△9.7%）

- **物件販売：**
 - ・リノヴェックスマンション販売： 251億円
 - ・その他不動産販売： 12億円
- **賃貸収入：**
 - ・一定水準の物件保有により、安定した賃貸収入を継続確保
- **その他収入：**
 - ・仲介事業に加え、リノベーション工事を一般ユーザー、他業社向けに拡充

4. 市場動向と今後の展望



■首都圏の中古マンション成約件数及び在庫件数の推移 （前年比での増減率トレンド 2008.6-2010.2）



■ 成約件数は、
・12ヶ月連続で前年上回る

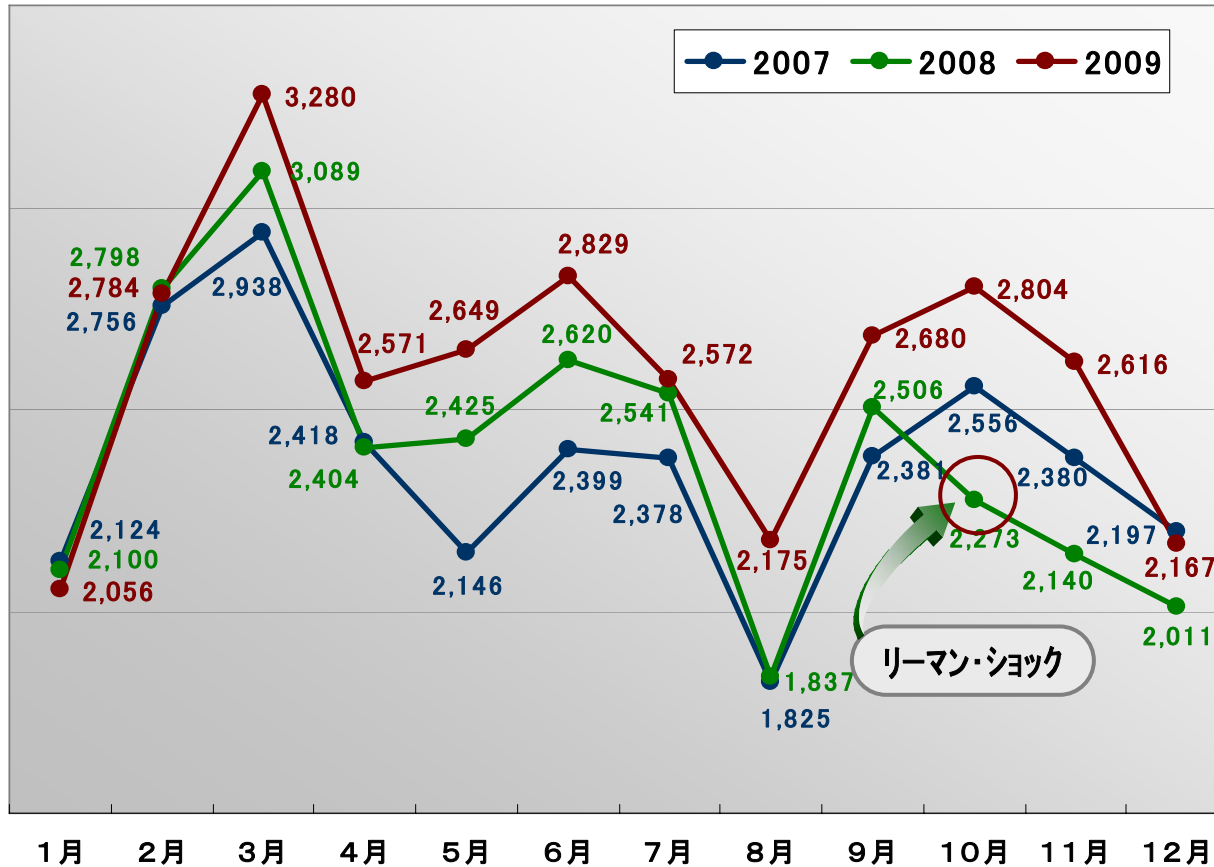
回復 ⇒ 安定成長へ

■ 在庫件数は、
・12ヶ月連続で前年下回る

在庫調整 ⇒ 品薄状態

※(財)東日本不動産流通機構(東日本レインズ)のデータを基に当社が作成

■首都圏の中古マンション成約件数の推移 （過去3カ年の同月実数トレンド 2007.1-2009.12）



- 成約件数の場合、季節変動が極めてハッキリ表れる
- 月次ベースでは、毎年安定した水準で成約件数で推移

- ・3月が最盛期
- ・8月、12-1月が、低水準

* 例外として、2008.10は、リーマン・ショックの影響で10月に減少

月次ベースで毎年安定

※(財)東日本不動産流通機構(東日本レインズ)のデータを基に当社が作成

■ 中期的にマンションの需給構造は、大きな転換期を迎えると想定

供給サイド

- 不動産業への保守的な融資姿勢
- とりわけ新興の新築ディベロッパーの供給戸数が激減へ
- 新築の代替市場として、リノベーション市場が物件を供給

需要サイド

- 中古市場の従来通りの安定した需要
プラス
- 一次取得者の流入
【賃貸から所有へ】
「賃料」>「ローン」の逆転現象
〔購入を後押しする背景〕
 - ・物件価格の割安感
 - ・低金利政策の維持
 - ・住宅ローン減税
- リノベーション物件の選択が増加

中期的にリノベーション市場は活性化し、「黎明」から「成長」ステージへ

5. コーポレート・データ 【参考資料】

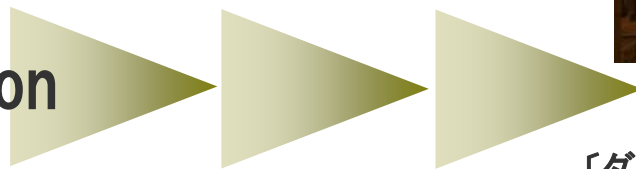
Before



After



Renovation



〔ダブルインフィル工法施工例〕

(単位:百万円)

セグメント	売上区分	2009年5月期 3Q累計		2010年5月期 3Q累計		前年同期比	
		金額	構成比	金額	構成比	増減金額	増減率
中古マンション 再生流通事業 (リノヴェックス マンション事業)	物件販売	25,506	94.5%	17,233	86.4%	△ 8,273	△ 32.4%
	賃貸収入	326	1.2%	323	1.6%	△ 3	△ 1.0%
	その他収入	57	0.2%	17	0.1%	△ 40	△ 69.8%
	小計	25,891	95.9%	17,574	88.1%	△ 8,316	△ 32.1%
その他不動産 事業	物件販売	291	1.1%	1,406	7.1%	1,115	+383.1%
	賃貸収入	596	2.2%	451	2.3%	△ 145	△ 24.3%
	その他収入	215	0.8%	507	2.5%	292	+135.7%
	小計	1,103	4.1%	2,365	11.9%	1,262	+114.4%
合計	物件販売	25,798	95.6%	18,640	93.5%	△ 7,157	△ 27.7%
	賃貸収入	923	3.4%	775	3.9%	△ 148	△ 16.1%
	その他収入	272	1.0%	524	2.6%	251	+92.3%
	合計	26,994	100.0%	19,940	100.0%	△ 7,054	△ 26.1%

※その他不動産事業: ビル、戸建、土地等にかかる事業

※その他収入: 主に子会社インテリックス住宅販売による不動産仲介手数料の売上、
インテリックス空間設計による一般ユーザー向けリノヴェックス内装事業

(単位:百万円)

セグメント	区分	2009年5月期 3Q累計		2010年5月期 3Q累計		前年同期比	
		金額	粗利益率	金額	粗利益率	増減金額	増減率
中古マンション 再生流通事業 (リノヴェックス マンション事業)	物件販売	1,198	4.7%	2,310	13.4%	1,112	+92.9%
	賃貸収入	248	76.0%	247	76.4%	△ 1	△ 0.6%
	その他収入	57	100.0%	17	100.0%	△ 40	△ 69.8%
	小計	1,504	5.8%	2,575	14.7%	1,070	+71.2%
その他不動産 事業	物件販売	△ 487	△ 167.5%	49	3.5%	537	—
	賃貸収入	397	66.7%	291	64.6%	△ 105	△ 26.6%
	その他収入	48	22.5%	△ 19	△ 3.9%	△ 68	—
	小計	△ 41	△ 3.8%	321	13.6%	363	—
合計	物件販売	710	2.8%	2,360	12.7%	1,650	+232.3%
	賃貸収入	646	70.0%	539	69.5%	△ 107	△ 16.6%
	その他収入	105	38.8%	△ 2	△ 0.5%	△ 108	—
	合計	1,462	5.4%	2,897	14.5%	1,434	+98.1%

※その他不動産事業: ビル、戸建、土地等にかかる事業

※その他収入: 主に子会社インテリックス住宅販売による不動産仲介手数料の売上、
インテリックス空間設計による一般ユーザー向けリノヴェックス内装事業

物件の販売件数（第3四半期累計）

※その他不動産：ビル、戸建、土地等

	2009年5月期3Q	2010年5月期3Q	前3Q比	(参)2010年5月期 通期 予想数値
リノヴェックスマンション	989	787	△ 20.4%	1,128
その他不動産	8	12	+50.0%	11
総合計（件）	997	799	△ 19.9%	1,139

リノヴェックスマンション販売の概要（第3四半期累計）

	2009年5月期3Q	2010年5月期3Q	前3Q比	(参)2010年5月期 通期 予想数値
販売物件 平均築年数（年）	19.9	19.3	△0.6年	—
販売物件 平均面積（㎡）	63.8	63.1	△0.7㎡	—
平均販売価格（千円）	25,790	21,898	△ 15.1%	22,300

リノヴェックスマンションのエリア別販売動向分析

エリア区分	2009年5月期 3Q累計			2010年5月期 3Q累計			
	販売件数	エリアシェア	平均単価	販売件数	前3Q比	エリアシェア	平均単価
東京都23区	393	39.7%	32百万円	263	△ 33.1%	33.4%	25百万円
東京都下	94	9.5%	22百万円	69	△ 26.6%	8.8%	21百万円
神奈川県	330	33.4%	21百万円	289	△ 12.4%	36.7%	21百万円
埼玉県	118	11.9%	19百万円	108	△ 8.5%	13.7%	17百万円
千葉県・他	54	5.5%	19百万円	58	+7.4%	7.4%	16百万円
合計	989	100.0%	25百万円	787	△ 20.4%	100.0%	21百万円

物件仕入の概要（第3四半期累計）

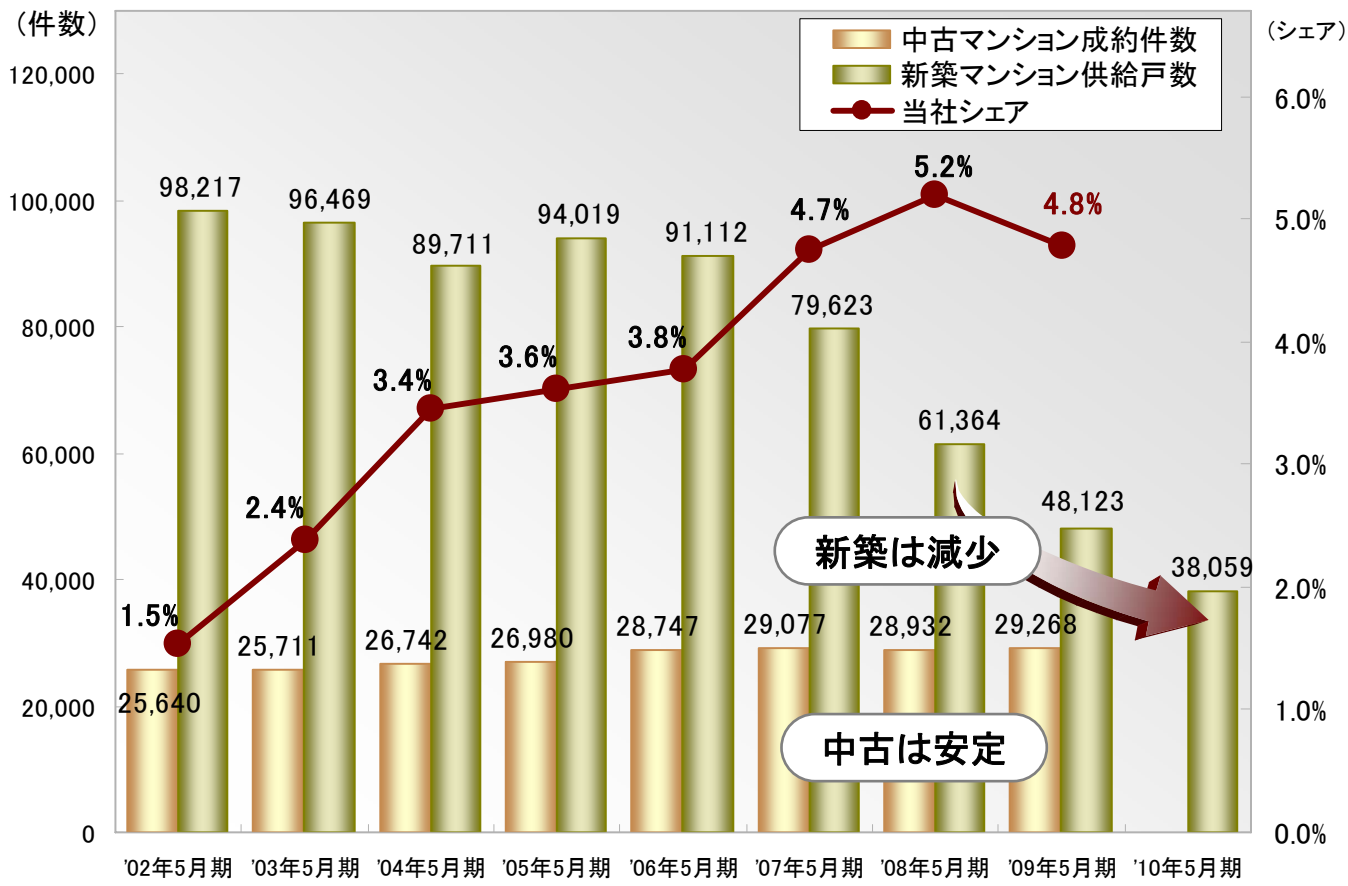
※その他不動産：ビル、戸建、土地等

セグメント	2009年5月期 3Q累計		2010年5月期 3Q累計			
	件数	金額	件数	前3Q比	金額	前3Q比
リノヴェックスマンション	843	124億円	831	△ 1.4%	122億円	△ 1.5%
その他不動産	5	3億円	1	△ 80.0%	0.04億円	△ 98.5%
合計	848	127億円	832	△ 1.9%	122億円	△ 3.8%

リノヴェックスマンションのエリア別仕入状況（第3四半期累計）

エリア区分	2009年5月期 3Q累計			2010年5月期 3Q累計			
	仕入件数	エリアシェア	平均単価	仕入件数	前3Q比	エリアシェア	平均単価
東京都23区	238	28.2%	17百万円	215	△ 9.7%	25.9%	18百万円
東京都下	75	8.9%	16百万円	71	△ 5.3%	8.5%	13百万円
神奈川県	296	35.1%	13百万円	353	+19.3%	42.5%	14百万円
埼玉県	115	13.6%	13百万円	83	△ 27.8%	10.0%	13百万円
千葉県・他	119	14.1%	11百万円	109	△ 8.4%	13.1%	8百万円
合計	843	100.0%	14百万円	831	△ 1.4%	100.0%	14百万円

■中古マンション市場における当社の販売シェア試算 (首都圏の中古マンション成約件数、新築マンション供給戸数との関係)



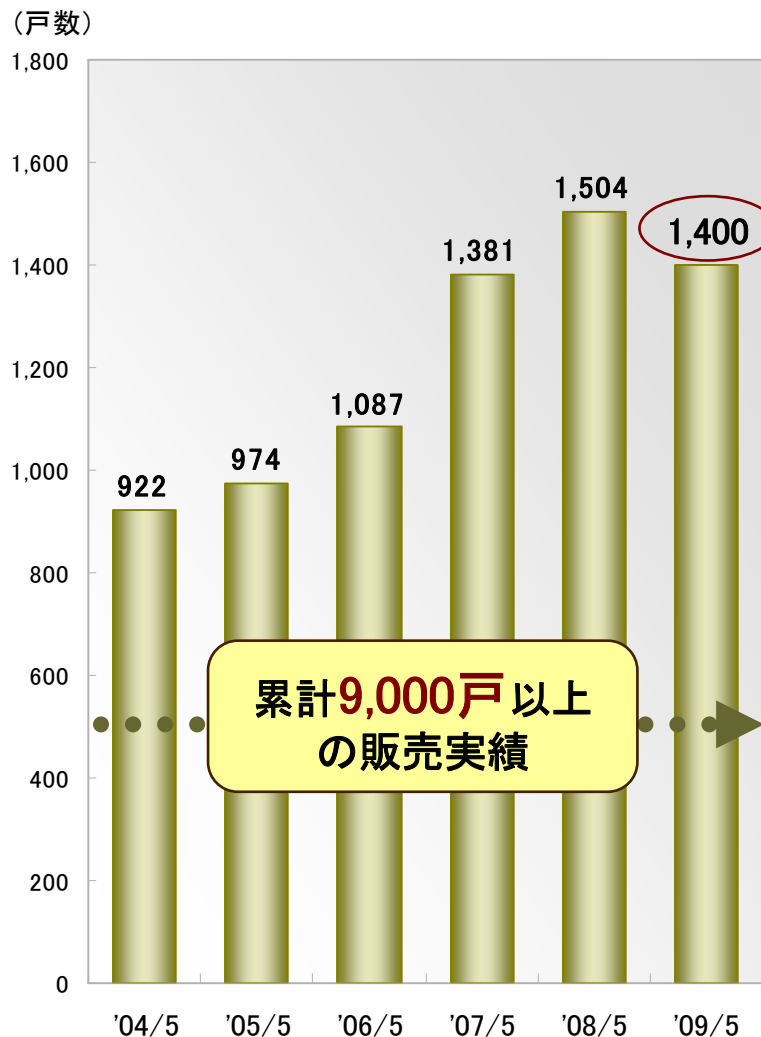
- 新築の供給は、景気動向に左右されやすい傾向
- 中古マンション市場は、安定したマーケットを形成
- 当社の市場シェアは、5%前後を確保

$$\text{当社シェア} = \frac{\text{当社リノヴェックスマンション販売件数}}{\text{首都圏の中古マンション成約件数}}$$

- 新築市場は市況の回復が遅れ、供給は減少傾向
- リノベーションマンションの注目度が高まる方向へ

※(財)東日本不動産流通機構(東日本レインズ)のデータ及び(株)東京カンテイのデータを基に当社が作成
 ※新築マンション供給戸数は暦年にて集計、中古マンション成約件数は当社決算期(6-5月)にて集計

■ 当社リノヴェックスマンション 販売実績の推移 (事業年度別)



仮に、首都圏の新築
マンションの供給戸数
ランキングと
比較した場合…

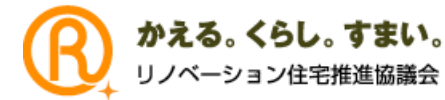
当社2009.5期の
販売実績1,400戸
7位に相当

■ 2008年首都圏新築マンション事業者別 供給戸数ランキング

順位	社名	供給戸数
1	三井不動産レジデンシャル	3,106
2	大京	2,071
3	野村不動産	1,956
4	藤和不動産	1,946
5	住友不動産	1,648
6	ゴールドクレスト	1,503
7	コスモスイニシア	1,330
8	三菱地所	1,090
9	日神不動産	905
10	日本綜合地所	836
11	ナイス	806
12	東京建物	796
13	東急不動産	773
14	扶桑レクセル	756
15	新日本建物	732
16	タカラレーベン	711
17	オリックス不動産	690
18	リスト	633
19	大和ハウス工業	626
20	総合地所	584

出所: 不動産経済研究所のデータを基に当社作成

■ 日本初のリノベーション業界団体として、 一般社団法人「リノベーション住宅推進協議会」が2009.7に発足



既存住宅の流通市場の活性化に向けて、
リノベーション(再生)の品質基準を定め、
優良なリノベーション住宅の普及浸透を推進

◎ 業界・業種の枠を超え、会員109社でスタート
⇒ 順調に会員数を伸ばし、**現在241社**に (2010.3現在)

【主な業務内容】

リノベーションに関する...

- ・技術水準や品質の向上
- ・普及・広報活動
- ・情報の収集及び提供
- ・関係団体等に対する協力、要望、及び提言

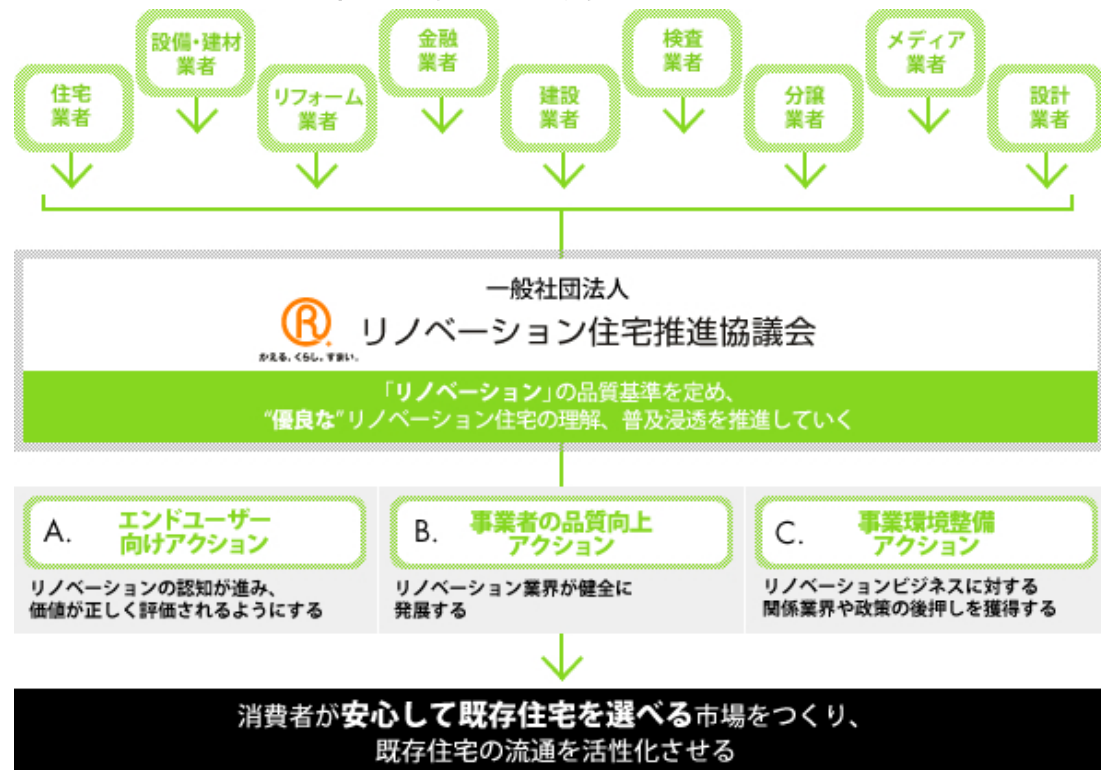
【当社の役割】

- ・協議会の**初代会長**として、**当社社長が就任**



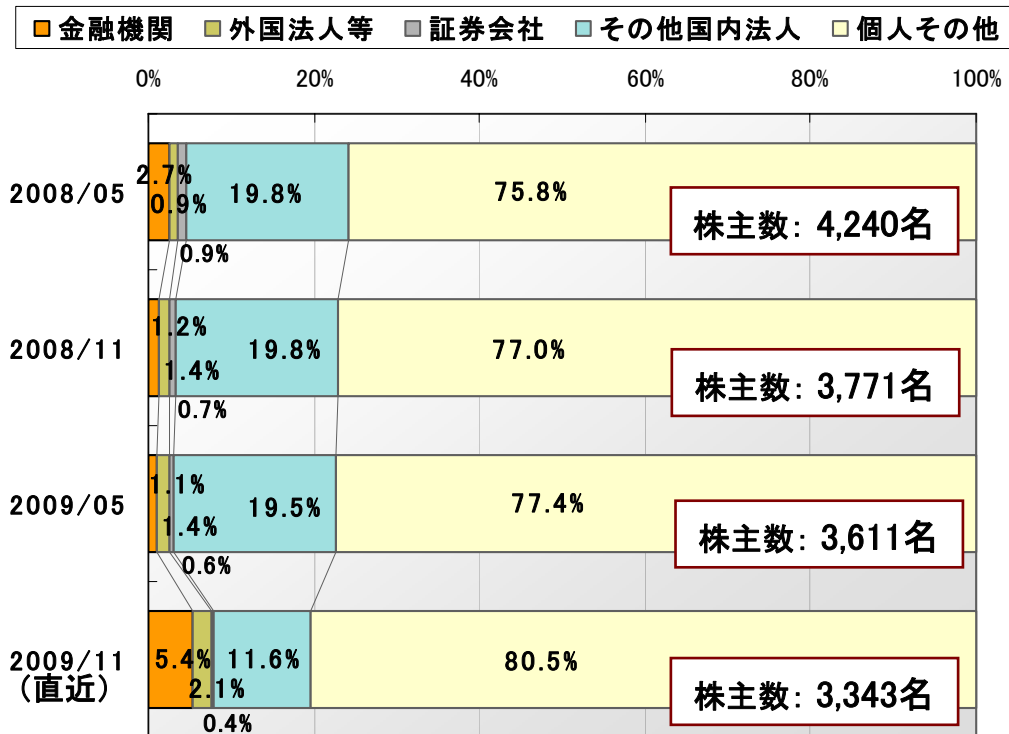
入会説明会の様子

リノベーション住宅推進協議会の概要



【株主構成(所有株数別)の推移】

(2009.11.30現在)



- 前期末(2009.5)より株主数268人減少
- 金融機関(機関投資家etc.)は、4.3ポイント増

【大株主の状況】

■ 発行済株式数: 75,300株 (2010.2.28現在)

■ 株主数: 3,343人 (2009.11.30現在)

大株主名	所有株数 (株)	議決権比率 (%)
山本 卓也	29,404	47.8
株式会社イーアライアンス	5,200	8.5
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,268	3.7
インテリックス従業員持株会	2,013	3.3
山本 貴美子	1,330	2.2
北沢産業株式会社	714	1.2
FGCS N.V.RE TREATY ACCOUNT (TAXABLE)	666	1.1
HSBC BANK PLC - CLIENTS UK TAX TREATY	479	0.8
日本証券金融株式会社	476	0.8
澤田 久美子	400	0.7
家本 健	400	0.7

【会社概要】

(2010年2月28日現在)

社名	株式会社インテリックス
設立	1995年(平成7年)7月17日
代表者	代表取締役社長 山本 卓也
資本金	1,656,688,500円
発行済株式数	75,300株
上場市場	東京証券取引所市場第二部
証券コード	8940
決算日	5月31日
ホームページ	http://www.intellex.co.jp
従業員数	連結185名、単体117名

【沿革】

年月	事項
平成7年 7月	東京都世田谷区に内装工事を目的として資本金1,000万円で株式会社プレステージを設立
平成8年 2月	宅地建物取引業者として東京都知事免許を取得(登録(1)第73719号)中古マンション再生流通事業(リノヴェックスマンション事業)を開始
平成8年 7月	商号を株式会社インテリックスに変更
平成10年 2月	株式会社インテリックス空間設計(現・連結子会社)を設立
平成12年 7月	取扱物件の情報管理のための「総合管理システム」を完成、導入
平成13年 7月	株式会社エムコーポレーション(現・株式会社インテリックス住宅販売、連結子会社)の全株式を取得
平成15年 2月	横浜市西区に横浜店を設置
平成15年 2月	宅地建物取引業者として国土交通大臣免許を取得(登録(1)第6392号)
平成15年 6月	当社グループの株式会社セントラルプラザを吸収合併
平成16年 9月	不動産鑑定業者として東京都知事登録(登録(1)第1934号)
平成17年 4月	JASDAQ証券取引所に上場(証券コード:8940)
平成19年 5月	東京証券取引所市場第二部に上場
平成19年 12月	JASDAQ証券取引所における株式を上場廃止
平成22年 3月	東京都中央区に八重洲店を設置

IRに関するお問い合わせは、
経営企画部 IR室 阿部 まで御願ひ致します。
TEL: 03-5459-3901 E-Mail: ir@intellex.co.jp

<http://www.intellex.co.jp/>

当資料に記載された内容は、2010年4月現在において一般的に認識されている経済・社会などの情勢および当社の経営陣の仮定及び判断に基づくものであります。

これらの記述は、経営環境の変化などの事由により、予告なしに変更される可能性があります。従いまして、当社の業績などの予測を立てられる際に、当資料に全面的に依拠されることはお控えくださいますようお願い致します。投資に関する最終的なご判断は、ご自身がなされるようお願い申し上げます。